

Museum News

Planning Office



絵：柳田 基

2011 秋

展覧会／講演会／公開研究会

展覧会

戦後演劇の世界

大阪労演とその時代 I 1949-1959

▶詳しくは、4面をご覧ください。

講演会

「戦後演劇と大阪労演」

講師：高岡 裕之氏

(関西学院大学文学部教授)

2011.11.5 (土) 13:30 ▶ 15:00

於：西宮上ヶ原キャンパス

大学図書館ホール (聴講無料)

公開研究会

-実物とデジタル画像による文化財考察-

「中国花鳥画の彩りに迫る」

パネリスト：

西尾 歩氏 (立命館大学非常勤講師)

塚本 磨充氏 (東京国立博物館研究員)

竹浪 遠氏 (黒川古文化研究所研究員)

司会：

杉本 欣久氏 (黒川古文化研究所研究員)

2011.11.12 (土) 13:30 より

於：黒川古文化研究所講演室

(黒川古文化研究所入館者は聴講無料)

作品から作者の思いに迫ることは、美術研究には不可欠です。この会は、パネリストが作品の高精細画像を見ながら、何を看取したか、何を考えたかを順に述べていき、中国絵画の制作背景をアクティブに探っていき、試みです。専門家だけでなく、一般の方々にも楽しめる会ですので、是非ともご参加ください。

未公開の貴重なコレクションが博物館開設準備室へ寄贈される 想像力豊かなアンデスの染織

アンデス山脈に栄えた文明

南アメリカ大陸の西側、太平洋岸沿いに南北に連なるアンデス山脈は、標高7000m近くに達する最高峰のアコンカグア山をはじめ、6000mを越える山々が聳え立っています。その山間に2000年も以前から、ナスカ、ティワナク、モチェなどのアンデス文明が生まれました。1500年頃にはインカ帝国がアンデスを制覇しましたが、その後スペイン人の侵入によってアンデス文明は滅びました。

アンデスの文明は、文字を持ちませんでした。しかし、彼らは独自の文化を残しました。死後の生活の存続を祈って、器や衣服などおびただしい量の生活用品を埋葬したのです。

一年中ほとんど雨が降らない、ペルーの海岸砂漠地帯の墳墓からは、外套衣やポンチョ、スカーフなどの衣類が多く出土しています。この地域では土中に埋葬された遺体が腐敗せずそのままミイラとなり、死者がまとう染織品も色鮮やかに保存されてきました。



多彩な染織技法 と想像力豊かな文様

19世紀半ばになると、色鮮やかなアンデスの染織品や原始的な土器がヨーロッパの美術品市場に現れはじめます。盗掘はその後も続き、いっぽうで考古学的な調査が進展するなかで、アンデスの染織品のすばらしさが知られるようになりました。

アンデスでは高地に棲息するリャマやアル



バカの獣毛、あるいは良質の木綿に恵まれ、早くから紡織技術が発達して、多彩な染織品が作られました。平織はもちろん、綴織や縫い取り織、複雑に糸がからみ合う羅や絹、色とりどりに染めた獣毛による刺繍や編み物、描染や絞り染などあらゆる染織技法を見出すことができます。

それらによって表現される文様は、実にユニークです。ピューマや蛇、猿などが神格化されたり、人間と動物が融合した超人神など、独自の世界観がうかがえます。自然への畏敬の念をいだきながら、たくましい想像力から生み出された染織品は、アンデスの豊かな文化を伝えています。

来春、コレクションを公開

今年の8月に、ある篤志家からの申し出によって、未公開のアンデス染織品のコレクションが博物館開設準備室へ寄贈されました。このコレクションは1960年代頃から京都の織物屋の主人が収集しはじめたと聞きます。その後、今回ご寄贈いただいた方のもとへ移り、縁あって関西学院大学の所蔵品となりました。

100点を超える染織品には、さまざまな技法や文様が見られます。来春にはコレクションの一部を公開し、想像力あふれる豊かなアンデスの染織の魅力にふれていただけるように、目下、調査と整理をおこなっています。

2012年春の展示にご期待ください。

(博物館開設準備室長 河上繁樹)

展覧会報告

関西学院所蔵の絵画Ⅱ

Art of the Bible

アート・オブ・ザ・バイブル

— 視る聖書の物語 —

関西学院が所蔵する絵画展第二弾を開催しました。今回はキリスト教絵画をテーマとし、画家の目から見た聖書の世界を辿る展覧会となりました。

2011.4.1 (金) ▶ 6.10 (金)

10:00 ~ 16:30 (日曜祝日休館)

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

時計台 2 階展示室

入場者数 2616 人

記念講演会参加者数 120 人



関西学院所蔵の絵画Ⅱ

日本人画家による キリスト教絵画を展示



前回に引き続き、春学期展覧会として関西学院所蔵の絵画Ⅱを開催しました。「普段目にすることの難しい関学所蔵の絵画を展示する」というコンセプトのもと、関西学院の教育理念の根幹にあるキリスト教に焦点を当て、小磯良平、田中忠雄、渡辺禎雄、鴨居玲、堀江優ら画家によるキリスト教関連の絵画を展示しました。

今回の展覧会では、展覧会の開催を従来よりも早め、入学式や受難週、宗教週間、同窓会総会といった行事が集中する4月1日から6月10日までの開催といたしました。また展示の内容も、普段キリスト教に馴染みのない方でも楽しんでいただけるような展覧会にすることを心がけ、第1室の展示では新約聖書の物語を辿る構成にいたしました。第2室の展示では、神戸で活動した画家のキリスト教をテーマにした作品を展示し、その作品の持つ力強さを体感していただきました。

これまでキリスト教に馴染みのなかった方や、受難週を迎えたクリスチャンの方、同窓会総会にこられた関学OBの方など、平素はあまり関西学院に来られない方々にも楽しんでいただきました。

画家の視た聖書の内容を視る

聖書に登場する人物たちの あふれ出る感情

キリスト教絵画は、文字の読めない人々にもキリストの教えを広めることを目的として始まりました。しかし、次第に信仰の対象としての絵画という枠組みから外れ、美術となりました。

明治時代に入り、日本でも西洋絵画の手法にならった絵画が制作されるようになりました。そのなかで、日本人は西洋絵画の根底に息づくキリスト教絵画の存在に気づきはじめ、日本人自らが信仰の中で感じたものを絵画として描き出すようになりました。その第一人者として名が挙げられるのが、今回の出品作家である小磯、田中です。その流れは、信仰への問いかけの中で感じたものを描きあらわした鴨居や、聖書の登場人物にみられる人間の弱さを描き出す堀江など、様々な表現をする画家を生み出すことになりました。また渡辺は、日本の伝統技法である型染めを版画に使い、日本人としてのキリスト教美術を作り上げました。



今回の出品作には、聖書から画家たちが読み取った登場人物の感情が、豊かにあらわされています。観覧者の方々からは、画家の視点から聖書の物語を見ることで、よりドラマティックな聖書の物語に出会えたと御好評いただきました。

記念講演会

聖書の中から人間の弱さを描く — 絵画制作にあたって —

5月18日(水)には、長年にわたってキリスト教絵画の制作に取り組まれた、安井賞作家である堀江優氏にご講演いただきました。長きにわたって小学校教師をつとめられた堀江氏の、自作の模造紙教材を使ってお話はとても感動的で、あっという間の1時間半でした。幼い頃からの絵画とのかかわり、小学校教師をする中で味わった挫折感と、それを乗り越えた時に描き続けることを決意した絵画制作への思い。また、ターニングポイントのきっかけとなった教育実践者斎藤喜博氏を、ご自身の作品に登場する人物のモチーフとしたことなど、過去から現在の制作活動に至るまでの半生を語っていただきました。

今回の展覧会開催に当たり、堀江氏から新たに1点、展覧会開催直前に完成した作品を寄贈していただきました。講演会では、堀江氏の今まで描いてきた主要な作品の写真を大画面に映し、初期の作品から寄贈された最新作に至るまで、その時々感情による表現の変化等についてもお話いただきました。



学内の時計台に初めて入ったのですが、絵画展として解放されていて嬉しいです。(関学OB 女性 20歳代)

キリスト教美術を主とした展覧会は希有です。大変素晴らしい企画に感動いたしました。今後の益々のご計画の進化と支持する方々の増加を祈っております。(作者遺族 男性 60歳以上)

こんな素晴らしい作品を大切に保存して一般市民にも提供して下さる、貴学は本当に県民の誇りです。(一般 女性 30歳代)

毎日通っている大学にこんなステキな空間があるなんて！(関学生 女性 10歳代)

こんなに近くで絵画を見ることができて嬉しかったです。絵画の横に題とその絵画の簡潔な説明文が添えられていたので大変わかりやすかったと思います。理解が深まりました。また素敵な展示を期待しています。(関学生 女性 20歳代)

同窓会総会参加のついでに訪れたが来年の総会開催時にもぜひ開催してほしい。(関学OB 男性 40歳代)

昔図書館だった場所が今もこうして活躍されているので嬉しいです。(関学OB 男性 50歳代)

絵を通して聖書についてよく分かりました。今までは文章でのみ、聖書の話を読んだことはあるのですが、絵画で見ることによって、人物1人1人の感情がよく分かりました。(関学生 女性 10歳代)

作品はいいが、会場がせまい……。 (関学生 女性 10歳代)

今後この博物館でもっともっと魅力的な作品に出会えますように期待しています。(一般 男性 20歳代)

聖書と関学の歴史をより身近に感じられよかったです。またこういう機会(関学の歴史展 etc)があればぜひいきたいです。(関学生 女性 20歳代)

子供の世話になる大学の教えのひとつを見させていただいた。(新入生父 男性 50歳代)

大学が建学の精神に合う芸術作品を持ち公開することは素晴らしいです。(一般 男性 50歳代)

数は多くなかったですが、どの作品も素晴らしかったです。作品の説明も詳しくて良かったです。絵画より聖書に入門できそうです。(一般 女性 50歳代)

今後共、一般市民の興味ある展示が開催されますこと望みます。(一般 女性 60歳以上)

階段がたいへんな方への配慮があればうれしい。(女性 60歳以上)

絵画の背景が読み取れる説明と、絵画に近くよれる展示方法のお陰で、世界に入り込めた。(関学生 男性)

テーマが明確で、作品も迫りに満ちていた。静かな空間で豊かな時をすごせました。期間中には是非友人をさそって再度来たいです。(学院関係者 女性 40歳代)

少し、思っていたよりもせまかった。(学生 女性 10歳代)

色彩の美しさと日本人の表現の方法に満足した。ヨーロッパの数カ国へ旅行し、教会、絵画をその都度観覧してまいりましたが、日本人の聖書解釈による画をみて、日本人の感じ方が表現の仕方があるのに感動しました。(一般 女性 60歳以上)

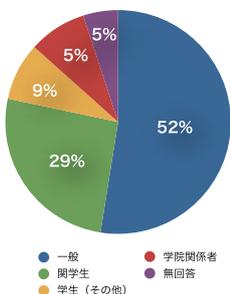
キリストの生涯と、神戸のキリスト教美術の2部構成でとてもわかりやすかったです。(一般 女性 20歳代)

小規模でありながら美術館並みのレイアウト、解説、照明などすばらしく、聖書と描く作家の背景を十分に味わうことができた。このような展示の企画を今後もふやしてほしい。もっと広報をすればよいと思う。(学院関係者 女性 50歳代)

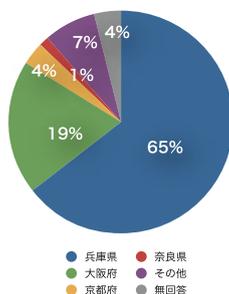
アンケート統計

アンケート回答者数 1578人
アンケート回収率 60.3%

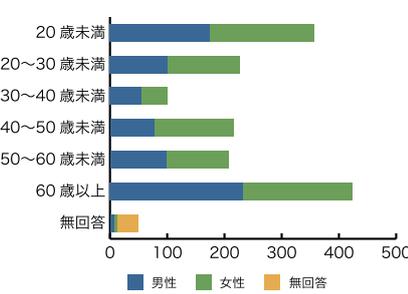
アンケート回答者内訳	
一般	832
関学生	408
学生(その他)	76
学院関係者	131
無回答	131



都道府県別観覧者	
兵庫県	1019
大阪府	306
京都府	55
奈良県	21
その他	116
無回答	61



年齢・男女別観覧者			
	男性	女性	無回答
20歳未満	175	181	
20~30歳未満	101	125	
30~40歳未満	55	45	
40~50歳未満	77	139	
50~60歳未満	98	109	
60歳以上	232	192	
無回答	7	6	36



展覧会来場回数	
今回が初めて	1177
2回目	169
3回目	95
4回目以上	78
無回答	59





第60回大阪労演例会 文学座「どん底」舞台写真(部分)

2011年 秋の企画展

名優が
大阪へやってきた

戦後演劇の世界

大阪労演とその時代Ⅰ
1949-1959

2011.10.24 (月) ▶ 12.17 (土)

10:00~16:30 (受付は 16:00 まで)

日曜日祝日休館

※但し 11.3 (木・祝) は開館

関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

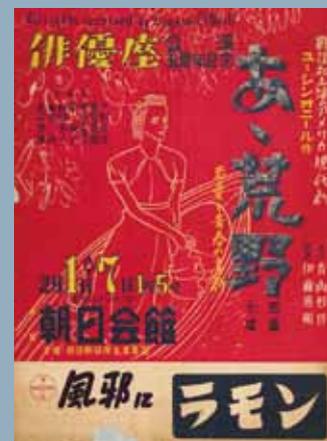
時計台 2 階展示室 〈入場無料〉

1949年に設立された大阪労演(大阪勤労者演劇協会)は、日本における演劇鑑賞運動の事実上の出発点であり、新劇を中心とする戦後演劇文化が関西において発展を遂げる上で中核的役割を果たしてきました。その歩みは関西の戦後演劇の歩みそのものと言っても過言ではありません。しかし、時代状況の変化のなかで運営に困難を来すようになり、2007年末をもって大阪労演は58年におよぶ歴史に終止符をうちました。

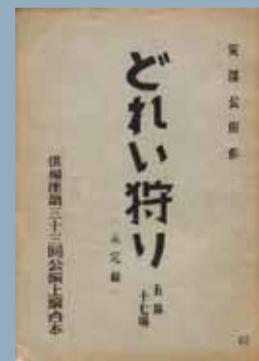
関西学院大学では大阪労演の解散に際し、同会所蔵の演劇関係資料の散逸を防ぐべく資料群を一括して受け入れ、その整理・調査研究を進めてきました。その資料には、大阪労演創立以来約700回に及ぶ例会のポスター、パンフレット、脚本など数万点が含まれ、こ

のほか職場演劇サークルなど関西の演劇運動に関する資料も存在しています。これらの資料は、戦後の関西における演劇文化の展開を知る上で、さらには日本の戦後演劇の足跡をたどる上でも極めて大きな価値を有します。

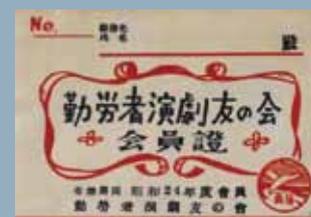
本学博物館開設準備室では、こうした大阪労演資料の魅力を多くの人々に伝えるべく「戦後演劇の世界—大阪労演とその時代Ⅰ—」と題する展覧会を企画いたしました。本展覧会では60年近い大阪労演の歩みのうち、戦後演劇の黄金時代といわれる1950年代から60年代にかけての名舞台の一端を紹介するとともに、大阪労演と結びついて展開した関西の劇団や演劇サークルに光をあて、関西における戦後演劇運動の足跡をたどります。



俳優座「あゝ、荒野」ポスター



俳優座「どれい狩り」脚本



労働者演劇友の会会員証



ぶどうの会「夕鶴」舞台写真

開催記念講演会

「戦後演劇と大阪労演」

講師：高岡 裕之 氏 (関西学院大学文学部教授)

2011.11.5 (土) 13:30 ~ 15:00

西宮上ヶ原キャンパス 大学図書館ホール

〈聴講無料〉

戦後の文化運動に造詣の深い高岡裕之教授に、大阪労演の創立事情や設立後の苦難、また会員数が増大し大阪労演が日本最大の演劇鑑賞団体に成長するまでの経緯などについてお話しいただきます。

博物館開設準備室通信 第5号
MUSEUM PLANNING OFFICE NEWS No.5

2011.10.1

関西学院大学博物館開設準備室

〒662-8501

西宮市上ヶ原一番町 1-155

TEL 0798-54-6054 FAX 0798-54-6066